

第 1 回北九州市基本計画見直し検討委員会 議事概要

日 時 平成 25 年 2 月 12 日(火) 13 時 00 分～15 時 00 分

場 所 ホテルクラウンパレス小倉 2 階 香梅の間

出席委員(・・・委員長、・・・副委員長)

太田 康子 (北九州市婦人会連絡協議会事務局長)
岡田 知子 (西日本工業大学教授)
古城 和子 (九州女子大学教授)
近藤 倫明 (北九州市立大学学長)
谷 美紀 (NPO法人 子育て・シンク・タンク理事長)
中尾 信賢 (福岡県警察北九州市警察部長)
羽田野 隆士 (北九州商工会議所専務理事)
細川 文枝 (公募委員)
宮原 深海 (北九州市自治会総連合会会長)
吉塚 和治 (北九州市立大学教授)

(敬称略・50音順)

1 開会

- 市長挨拶 -
- 近藤委員を委員長、古城委員を副委員長に選出 -
- 市長より委員長へ諮問書を提出 -

2 議事

- (1) 北九州市基本構想・基本計画(「元気発進!北九州」プラン)の概要説明について
 - 「資料3」に基づいて事務局より説明 -
- (2) プランの進捗状況等の説明について
 - 「資料4」に基づいて事務局より説明 -
- (3) 北九州市基本計画の見直しに向けた議論のポイントについて
 - 「資料5」に基づいて事務局より説明 -

(4) 討議

太田委員

- 婦人会活動は縮小気味だが、色々な情報が末端にまで届けば、一緒に行動を起こしてくれるのではないかと。市民の力が十分発揮できる北九州市であって欲しい。
- 安心・安全なまちづくりについては、見守り制度なども徐々に広がっている。そういうところに市民全体で関わっていく女性パワーが全開になれば、団塊世代の男性達も刺激を受けて一緒になって活動できるのではないかと。
- 環境に関しては、北九州市は国に先駆けて実施していることがたくさんある。もっと情報発信をして、市民全体が北九州市は環境都市だと感じられるようになればよいと思う。
- 市民の力で人材を活かして知恵を絞り、市の財政が困難な所を補っていけるようなことを考えていきたい。NPOもたくさんできており、それらが力を合わせればもっと何かができるのではないかと。連携から融合というところまでいければ素晴らしい北九州市になるのではないかと。
- 施設面、ハード面は充実してきたので、それをいかに市民が活用し、地域に活かしていけるかというところに結び付けていければ良いと思う。

岡田委員

- 北九州市は都市基盤が充実している。都心まで通勤 30 分以内で通える人が 50% 以上いるというのは、政令指定都市ではトップクラスで便利な町である。
- 一方で、古い公共施設を今後どうしていくかが問題であるが、スクラップアンドビルドではなく、色々な良い建物をいかに活用していくかが非常に重要である。北九州市にとって何が良いのか、どういうまちづくりをすべきなのかを、市民がそれぞれ考えて行動するという視点が重要ではないかと。
- 建築やまちづくりについても、今までのように行政が全てを整備して、それを市民が活用するのではなく、市民がどういうふうに既存ストックを活用していくかを考えて、それを行政がバックアップしていくような方向転換を図っていくべき。
- 建築や都市の話になると、経済性、効率性、機能性が重要視されるが、それだけでなく、人々の思い入れや拠り所というような別の価値、側面からの価値を発見することも重要であり、価値、判断の転換も同時に図るべき。

谷委員

- 大気汚染が問題になっている。知らないということほど不安につながることはないので、PM2.5の値をできるだけ早いタイミングで市民に公開していただきたい。
- 北九州市の小児科医数は若干増えているということだが、産科・産婦人科医の数は全国平均では 6.6% 減少のところ、北九州市は 11.6% の減少となっている。周産期医療や出産する場所が近くにあるということが、若い人達が子どもを産んで育てる一番

の入口になるので、そのあたりの拡充を考えていただきたい。

- 子どもの学力検査が全国平均を下回り、体力・運動能力の実技の結果も全国平均に到達するものが数少ない。その対応を早急にしていただければと思う。

中尾委員

- 基本計画ができて 4 年目が過ぎようとしているが、以前の北九州市と比べると色々な面で良くなっていると思う。
- 色々な数字で見ても、北九州市の治安面は非常に良くなっている。また、暴力団の構成員も確実に減ってきている。
- 治安面については、各校区にある生活安全パトロール隊など色々な関係機関がスクラムを組んで地域安全活動をしている。そういった活動が数値に表れているのではないか。今後も明るいまち北九州をつくっていければと思う。

羽田野委員

- 全国の経済人の集まりなどで、北九州市は色々な意味で羨ましがられる。一つは環境で、産業の成長戦略で期待できるという点で皆が注目している。環境をいかにビジネスチャンスに結び付けていくかというところで、アジアに近い地域的な優位さを活かして有利な展開ができていないか。
- 気になるのは、高齢化率の上昇が非常に早いことである。また、人口が減少している点は経済人の立場からすると市場が狭まるということなので、歯を食いしばって市場性を広げていく。
- 私どもの会頭は、一つは環境、一つは産業観光ということで、とにかく声を大きくして元気を出していこうと言っている。夢が持てる町ではないかと思っている。
- 基本計画の見直しに向けた調査・分析を先程ご説明いただいたが、現状の悪い点がややわかりにくい。悪い点に対してどうやって手を打っていくかを検討する必要がある。
- 特に雇用が拡大する、働くところがあるというのが一番大事。企業がそれぞれ成長して初めて雇用に関わり出すので、産・学・官が連携しながらいかに成長戦略を練っていくかが大事ではないか。
- 行財政改革について答申して終わりではなく、答申した結果を行政が受けて、その進捗状況を答申した方も責任を持ってチェックするような仕組みが必要ではないか。
- 収入が減少しているはずなので、従来通りのサービスは難しいと思う。市民もその辺りを意識して、全てを行政に頼るといふことから抜け出すことが大事である。

細川委員

- やはり北九州は工業の町だと思う。福岡市や他の商業の町と同じような方向で進めていこうとすると、少しきついのではないか。ものづくりの町、工業都市としての人の資質を認識したうえで討議すべきだと思う。
- 産・学・官が一緒になって話す時に、産業の現場の声を直接聞くようにすれば、経済

に結び付く流れになっていくのではないか。

宮原委員

- 安全・安心のまちづくりについては、治安、警察当局を中心とした犯罪等の抑止の指導を受けながら、生活安全パトロールや通学児童の見守り活動、挨拶運動を年々拡充することにより、一定の成果を上げていると思う。
- 超高齢化社会の対応については、地域で取り組む健康づくりとして、健康づくり推進員やまちづくり協議会の組織で取り組んでいる。また、地域で安心して暮らせる環境づくりとして、一人暮らしの高齢者や援助を必要としている高齢者世帯を中心に、見守り活動や安否の確認に地域や校区で取り組んでいる。
- 防災対策の強化は、地域における最大の関心事であると思う。地震や災害から人々の暮らしを守っていくために、その方策を真剣に考えなければならない。
- 昨今、住民同士の助け合いや相互援助といった暖かい思いやりが薄れている事例や、町内会不在、すなわち町内会未加入の現象が際立っている。地域での福祉問題の解決がコミュニティ活動の大きな課題となっている。少子高齢化社会の進行により、地域コミュニティへの期待がますます高まってくると思う。

吉塚委員

- 「アジアをリードする頭脳拠点の形成」に関する企業へのアンケートでは、大学が人材の育成・供給の場として役立っていると「感じていない」企業が約 5 割となっており、その理由として、「市内の大学とこれまで接点がない」、「市内の大学にどのような人材がいるか情報が不足している」との回答が多い。これは、情報発信不足が如実に現れたデータだと思う。技術の認知度を上げる方策を考えていかなければいけない。
- 最近、越境大気汚染の問題が極めて深刻になっている。越境汚染は非常に大きなダメージが後でくる。特に北九州ブランドの無農薬、低農薬のトマトなどがこのような煤を被ると、風評被害なども考えられる。これら越境大気汚染に対する様々な対策が北九州ブランドを守るという意味でも重要である。
- 北九州市は国際環境ビジネスに取り組んでおり、特に水ビジネスでは極めて強い技術力と推進力を持っている。しかし、日本国内においては、環境ビジネスは基本的に補助金や助成金がないと成立しない、つまり、儲からない産業である。国際環境ビジネスの推進するためには、どのようにして儲かる環境ビジネスにしていけば良いかという点で、知恵が必要である。
- 北九州市および北九州地域においては、自動車産業の集積がかなり進んでおり、エコカーや電気自動車等に使える蓄電池などの製造技術やロボット技術は、非常に重要な産業である。その産業に資するような新しい技術を開発していくような目標や、リサイクルで利益が出る環境産業を考えていくのが良いと考えている。
- 東日本大震災以降、エネルギー不足、電力不足等で企業が外国に出て行くのではないかと不安があるので、環境と技術を売って儲かる産業を育てていけるような技術

を開発していければと考えている。

古城副委員長

- この調査結果の成果と課題のダイジェスト版を付けていただきたい。ご提示いただいた資料を基に討議をさせていただきたい。
- 市民に対する情報発信に問題があると思う。本市には良いところがたくさんあり、各界の専門分野の方々に本市の施策等の良さが認められている。しかし、調査結果からも明らかなように、市民が北九州市を誇りに思えないことが問題である。
- 市の職員は担当分野にはとても詳しいのだが、それ以外の分野については情報共有が不足しているのではないか。行政の人材交流、人材活用、あるいは部署をまたいだ形のプロジェクトを組んで、市の具体的な施策や北九州市が誇れるもの等について、市の職員が相互に理解、情報共有をしていただきたい。
- 市職員の人材育成や活性化が重要である。30代、40代の若い行政の方々が企業や学校等他分野の方々と人的ネットワークを作ったり、外部の情報を得るための仕組み作りが必要ではないか。
- 儲かるビジネスに繋がるようなシニアの人材活用が考えられる。産学共同と言う時にも現役世代だけを対象とするのではなく、リタイアした方々にもヒューマンネットワークや技術力があるので、そういう方々を活用すべき。企業では定年の5年前くらいからワーク・ライフ・バランス等の色々な講習会・講演会をやっているので、市の職員がそこに出向いて人材を募集するようなやり方が考えられるのではないか。

以 上